設楽発掘通信

No.45
平成31年
2月号

新設楽発見伝5を開催いたします。

平成三十年度の設楽ダム関連遺跡調査の成果報告会『新設楽発見伝5』を開催いたします。今回の『新設楽発見伝5』では、平成三十年度に発掘調査をおこなった、滝瀬遺跡と石原遺跡などの成果報告（二・三頁でご紹介）と、日本の後期旧石器時代から縄文時代草創期までの石器文化について、愛知学院大学の白石浩之先生の講演会と先生を交えた座談会をおこないます。ここでは、講演会の内容と、白石先生について簡単にご紹介いたします。

今回の講演会では、日本列島の後期旧石器時代から縄文時代草創期の石器文化をはじめ、東海地方の様相についてもお話いただけるものと思います。また、座談会では関連遺跡として、平成二十七年度と二十八年度に発掘調査をおこなった、川向地区の川向東貝津遺跡の出土遺物、奥三河地域の古環境、石器石材について発表し、これらを踏まえて愛知県内の後期旧石器時代、縄文時代草創期の遺跡について考えていきます。

奥三河地域では、これらの古い時代の遺跡が今後発掘される可能性があります。この成果報告会では現時点の成果をまとめ、古い時代について考えていきますので、皆様のご来場をお待ちしております。

（愛知県埋蔵文化財センター　田中　良）

白石浩之先生の経歴の紹介

白石浩之先生は昭和二十一年の生まれで、歴史学の博士号を取得しています。国学院大学大学院を修了後、神奈川県教育委員会文化財保護課に就職され、神奈川県寺尾遺跡や吉岡遺跡群など旧石器時代から縄文時代草創期にかけての著名な遺跡の発掘調査に関わられた、日本の後期旧石器時代研究の第一人者です。また、多数の学術論文だけでなく、入門者向けの『旧石器時代の社会と文化』や博士論文である『石槍の研究―旧石器時代から縄文時代初頭期にかけて―』、最近刊行されました『旧石器時代文化から縄文時代時代文化の潮流―研究の視点―』（編著）など著書も多く出版されています。学界におかれては、一般社団法人日本考古学協会の副会長や日本旧石器学会の会長などの要職を務められました。

平成十二年に愛知学院大学文学部教授として赴任されてからは、考古学コースを立ち上げ、考古学実習の一貫として、田原市の宮西遺跡や新城市の萩平遺跡A地点隣接地など、後期旧石器時代から縄文時代草創期の遺跡を調査し、出土品整理をおこなって報告書を刊行されています。また、若手研究者の育成に力を注ぎ、愛知県内の市町村だけでなく、東北や関東方面でも学芸員として多くの卒業生が活躍しています。

平成28年度の川向東貝津遺跡での現地指導

石原遺跡の発掘調査成果をご紹介

石原遺跡遠景 (西から)
写真の右側に境川が流れ、遺跡は境川の右岸にある沖積地上の標高約 400m に位置します。

18A 区　土坑 030SK(南から)
この土坑からは、剥片が数十点出土しました。これらは同質の凝灰岩であり、意図的に埋められたと考えられます。

18B 区　竪穴建物跡 170SI(北から)
縄文時代中期前半の竪穴建物跡です。この時期の遺跡で、竪穴建物跡が見つかるのは東海地方では稀な事例です。

18B 区　竪穴建物跡 325SI(北東から)
この竪穴建物跡は直径約 7.8m の巨大な住居です。柱穴や壁溝の状況などから、建て替えが行われたと考えられます。

18B 区竪穴建物跡 325SI の石囲炉 330SL(南から)
外側の石の長軸と内側の石の長軸がズレていることなどから、この石囲炉が作り替えられていることが分かりました。

18B 区　土坑 303SK(土器出土状況)
連続する爪形文が刻まれた太い隆帯を貼り付けた土器は、東海地方の縄文時代中期前半に特徴的です。

滝瀬遺跡の発掘調査成果をご紹介

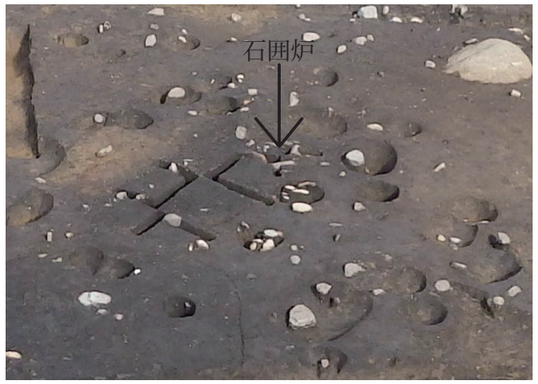
滝瀬遺跡全景 (南から)
18A 区では平安時代、18B 区では縄文時代草創期末、18C 区では縄文時代後・晩期の遺構や遺物が出土しました。

18A 区　竪穴建物跡 1010SI とカマド跡 (南西から)
18A 区では、平安時代の竪穴建物跡とそれに伴うカマドが検出され、灰釉陶器の破片が出土しました。

18B 区　竪穴建物跡群 (南から)
縄文時代草創期末から縄文時代早期初頭 (11,000 ～ 9000 年前) にかけての愛知県内では最古となる集落跡です。

18B 区　竪穴建物跡 845SI 遺物出土状況 (北東から)
この竪穴建物跡のように、建物内からは土器や剥片などが多量に出土しました。

18C 区　土坑 772SK(石刀出土状況)
この石刀は、縄文時代晩期 (3,000 年前) のものです。先端と中央に刻み目の装飾が施されています。



18C 区　竪穴建物跡 790SI(東から)
縄文時代後期の竪穴建物跡です。残念ながら、床面より上面が削平されていますが、石囲炉が中央に残っています。

新設楽発見伝5の内容（参加無料）

日時：平成三十一年三月二日（土） 午後一時～午後四時
開場　午後〇時三十分

会場：設楽町田口特産物振興センター
（設楽町田口字向木屋三番地一号）

開催のあいさつ

・発表1　平成三十年度の設楽ダム事業に伴う発掘調査
《一時十分から一時二十分》
愛知県教育委員会　野口　哲也

・発表2　石原遺跡の発掘調査
《一時二十分から一時四十分》
愛知県埋蔵文化財センター　田中　良

・発表3　滝瀬遺跡の発掘調査
《一時四十分　から　二時》
愛知県埋蔵文化財センター　早野　浩二

・発表4　中村遺跡とハラビ平遺跡の発掘調査
《二時　から　二時十分》
愛知県埋蔵文化財センター　永井　邦仁

・・・・・・・・・・（休憩）・・・・・・・・・・
《二時十分から二時三十分》

・講演　文化変動する先史時代の日本
《二時三十分から三時二十分》
愛知学院大学客員教授　白石　浩之先生

・座談会　文化変動する先史時代の日本。そのとき設楽は？
《三時二十分　から　四時》
白石先生・鬼頭・田中・早野（聞き手）

閉会の挨拶

平成30年3月に開催した新設楽発見伝4の様子

設楽発掘通信

No.45　平成31年2月号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24
電話　（0567）67-4161【管理課】　4163【調査課】
ホームページ　http://www.maibun.com
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力　安西工業株式会社